

# 空の冒険



よーた、しあうい、ち

原田由美子「よーた、しあうい、ち」『文庫時代』1971年

『2000年「ベスト」』山本浩三監修、「ベスト」ライオン文芸部

2000年「ベスト」『毎日新聞』文化・文芸部

2000年「ベスト」『毎日新聞』文化・文芸部

『2000年「ベスト」』山本浩三監修、「ベスト」ライオン文芸部

淘汰されたものが地方にやってくると思えば、少しは理解  
頂けるだろうか。要するに少し大袈裟に言えば、ショッピン  
グセンターでは今の日本の姿が見えるのだ。

などと、偉そうなことを書いてしまったが、もう少し具体  
的に言わせてもらおうと、たとえば書店だ。東京の書店でもベ  
ストセラーはわかる。しかし、それは売れている本であって、  
決して読まれている本とは限らない。この違いを上手く説明  
できないのもどかしいのだが、とにかくこの違いは大きく  
て、この手のショッピングセンターの書店では、その「今、  
日本で読まれている本」がわかるのだ。

CDショップについてもまったく同じで、今、もっとも売  
られている音楽が分かる。もちろんそれは、オリコンの上位  
を占める曲というだけではなくて、さっきの本と同じように  
実際に聴かれている曲という意味だ。

倉吉から三朝へ戻り、しばらく河原を歩きながら川を眺め  
ていた。川を眺めていると、時間の流れというものを忘れて  
しまいそう。ふと気がつけばそのことだけを考えている。  
のんびり歩いていると、川沿いの大きな観光ホテルのラウ  
ンジでひとりお茶を飲んでいる友人の姿があった。改めて見  
れば、お互い様だが「老けたなあ」と思う。考えてみれば十  
三歳から友達で、三十年の付き合いになる。お互いにかっこ  
つけたり、転んだりする姿を嫌というほど見えた仲だ。

川の流れほどの情緒はないが、それでも同じ時間を過ごし  
てきたわけだ。ここ三朝のお湯が効いて、早く元気になっ  
てくれよと思う。